

令和2年度（2020年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.1

公募により選定した指定管理者「NPO法人市民ネットすいた」により、以下の事業を実施  
令和2年度（2020年度）交流スペースを含む施設利用者は20,180人

1 施設の使用許可業務

会議室、事務ブース、メールボックス、ロッカー、物品棚の使用許可及び使用料の徴収

2 相談事業

- ① 一般相談：市民公益活動団体の運営に関する相談、市民公益活動への参加や市民公益活動団体による支援を希望する市民からの相談等（随時、相談203件）。
- ② 専門相談：専門相談員体制を構築し、随時の相談を受付。プロボノ制度の整備を開始。
- ③ NPO法人相談：窓口で随時対応。また、NPO法人設立講座終了後に個別相談に対応。
- ④ IT座談会：市民公益活動団体などのITに関する相談に随時対応。

3 情報提供・広報支援事業

- ① ウェブサイト：センターの開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開など。Facebookも活用。
- ② ニュースレター：事業報告及び講座・イベント等の案内、特集記事を掲載、4回発行（各2,500部）  
配付先：市民公益活動届出団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の中間支援組織など
- ③ メールマガジン：センターの事業案内、助成金情報、市民公益活動団体等のイベント情報やボランティア情報等、月に1回発行。登録者数656件。  
対象：市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政
- ④ 市民公益活動のための図書の設定：市民公益活動に関する書籍や掲示物、パンフレット等の資料を収集し、市民活動スペース・交流サロンに設置。
- ⑤ ちらし同封サービス、配架：ニュースレターを配付する際、市民公益活動団体のちらしを同封するサービスを実施。また、交流スペースでチラシやパンフレットの配架、ポスター掲示を実施（668件）。
- ④ 市民公益活動団体ガイドブックの更新管理：前回発行の冊子の更新発行（600部）。ウェブサイトの情報を随時更新。

## 令和2年度（2020年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.2

## 4 講座・研修事業

講座名	実施回数・内容		参加者数
ボランティア・NPO 初歩講座	5回	少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説し、個別相談にも対応。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけもつくることできた。（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催回数減）	17名
地域活動デビュー講座	0回	（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	0名
NPO・ボランティアグループデビュー講座	0回	（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	0名
公益活動向けの法人化講座	1回	公益活動団体の法人化の支援を図るとともに、これから公益活動に取り組んでいく方の法人化への理解を深めるための講座を開催。	5名
会計・税務に関する講座	0回	（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	0名
団体情報の発信に関する講座	3回	動画制作講座を実施。	47名
財源の確保に関する講座	1回	吹田市市民公益活動の支援補助金説明会を実施。助成金講座は新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止。	8名
NPO・ボランティアグループ運営講座	2回	Zoom の体験会、オンラインでの会議、講座、ワークショップにおけるファシリテーションを学ぶ講座を実施。市民公益活動促進補助金交付団体向け講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	26名
地域コミュニティ運営講座	2回	新型コロナウイルス感染症拡大の影響下での人とのつながり方、公共空間の活かし方、コミュニティづくりについて考える機会を設けた。また、このような状況下における市民公益活動の創意工夫の様子を紹介した。	26名

## 令和2年度（2020年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.3

## 5 交流・連携促進事業

交流・連携事業名	実施回数・内容及び目的		参加者数
団体交流会	1回	吹田市災害支援ネットワーク会議を団体同士の交流促進の場として実施。利用者懇談会兼団体交流会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	59名
市民協働マッチング	随時	市民協働のニーズを受け付けて、ウェブサイトやメールマガジンなどで広報し、分野やセクターを越えた連携・マッチングの支援ができる状況を整えた。	—
現場で学ぶ団体運営学習会	随時	(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)	—
テーマカフェ	2回	特定のテーマで自由に語り合える「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる交流の場を提供。 テーマ：「摂食・嚥下障害」「あなたにもできる自殺予防」 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催回数減)	29名
「このゆびとまれ」の会	随時	市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人、何かやってみたい個人に対して、団体やプロジェクトの立ち上げ支援や運営サポートを実施。	—
地域コミュニティラボ事業	随時	自治会や地域コミュニティの拠点となる公民館などの運営や企画について随時相談対応やサポートを実施。	—
おすそわけマーケット	常設	ひと昔前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣や近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マーケットは休止し市民からのおすそわけを団体へ寄付する形で実施。	—

その他、東日本大震災により吹田市に避難された方の相談窓口を開設。

令和2年度（2020年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 4

6 調査・研究・政策提言など市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

シチズンシップについて知る動画コンテンツを作成。

新型コロナウイルス感染症による市民公益活動団体への影響に係るアンケート調査を実施。

7 施設運営について

① 利用者懇談会：施設利用者にセンターの運営や利用、サービスに関する意見を出してもらい運営に反映した。1回開催。

② ボランティア制度：登録ボランティア（ラコルタサポーター）がセンターと協力しながら、事業の運営に携わっている。ニュースレターの企画・編集やイベントの企画・運営など、センター事業へのボランティアスタッフの積極的な参画があった。単発短時間で取り組める「ぷちボラ」では、ボランティア体験の機会を提供、ボランティアチーム「あつめーる」では、使用済み切手やはがきの収集を行い、アフリカの植林支援のための寄付をした。

8 自主事業

① コミュニティカレッジ 「eNカレッジすいた」

eNカレッジすいたの事業見直しに向けた基礎調査として、修了生を対象とした交流会及びアンケート調査の実施と、地域人材の担い手像を具体化するための調査を実施。

② 北摂4市連携事業

センターの事業継続計画（BCP）を、箕面市、池田市、豊中市の各センターと協働して作成。

③ 他事業から生まれる交流・連携

施設運営の様々な場面で交流・連携を図った。相談等事業の対応結果として、交流・連携を生み出す事業の会場貸与、広報支援などのサポートを実施。また、協働マッチング事業から発展させることもできた。